

平成28年度行政事業レビューシート ( 厚生労働省 )

<b>事業名</b>	子育て支援対策臨時特例交付金			<b>担当部署</b>	雇用均等・児童家庭局			<b>作成責任者</b>			
<b>事業開始年度</b>	平成20年度	<b>事業終了(予定)年度</b>	平成28年度	<b>担当課室</b>	総務課			川又 竹男			
<b>会計区分</b>	一般会計										
<b>根拠法令</b> (具体的な条項も記載)				<b>関係する計画、通知等</b>	・平成20年度子育て支援対策臨時特例交付金(安心こども基金)の交付について(文部科学事務次官、厚生労働事務次官通知 平28.3.11 厚生労働省発雇児0311第13号) ・子育て支援対策臨時特例交付金(安心こども基金)の運営について(文部科学省初等中等教育局長、厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知 平28.3.11 28文科初第1658号、雇児発0311第9号)						
<b>主要政策・施策</b>	国土強靱化施策、子ども・若者育成支援、少子化社会対策、男女共同参画			<b>主要経費</b>	社会保障						
<b>事業の目的</b> (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	都道府県が、「待機児童解消加速化プラン」による保育所の整備等、認定こども園等の保育需要への対応、及び保育の質の向上のための研修などを実施するとともに、地域の子育て力をはぐくむ取組等すべての子ども・家庭への支援、ひとり親家庭・社会的養護施設等への支援の拡充、児童虐待防止対策の強化、東日本大震災により被害を受けた地域における生活相談支援、配偶者間の不妊治療に要する費用の一部助成等により、子どもを安心して育てることが出来るような体制整備を行うため、安心こども基金を造成し、当該基金を活用することを目的とする。										
<b>事業概要</b> (5行程度以内。別添可)	保育サービスの基盤整備等を推進するための基金の造成に要する経費を都道府県に交付するものである。平成27年度予算においては、平成27年度補正により新たに交付(基金への積み増し)、基金の残額を活用して、「保育所緊急整備事業」や「認定こども園整備事業」等を実施する。 (実施期限:平成29年度末) ○実施主体:都道府県 ○補助率:定額										
<b>実施方法</b>	交付										
<b>予算額・執行額</b> (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度要求				
		補正予算	-	130,083	-	-	-				
		前年度から繰越し	16,862	-	50,148	-	-				
		翌年度へ繰越し	-	-	-	25,320	-				
		予備費等	-	-	-	-	-				
		計	16,862	130,083	24,828	25,320	0				
	執行額	16,862	130,083	24,828							
	執行率(%)	100%	100%	100%							
<b>成果目標及び成果実績</b> (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標	目標最終年度		
	-	-	成果実績	-	-	-	-	-	-		
			目標値	-	-	-	-	-	-		
			達成度	%	-	-	-	-	-		
<b>定量的な成果目標の設定が困難な場合</b>	定量的な目標が設定できない理由			定量的な成果目標と25~27年度の達成状況・実績							
	安心こども基金については、地域の実情に応じて、子どもを安心して育てることが出来るような体制整備を行うための経費であるため、事業の目標を直接的に測ることのできる定量的な指標を設定することは困難である			予算の執行状況を成果目標とし、成果実績を執行額とする 事業に対する執行率は26年度まで100%、27年度は予算の約50%を執行し、残りを次年度に繰越した。							
	代替目標	代替指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標	目標最終年度		
事業の妥当性を検証するための代替的な達成目標及び実績	各都道府県に基金を設置することにより、各自治体で異なる保育需要等に即応した弾力的かつ機動的な予算執行が可能となるとともに、各自治体の目標達成に向けた安定的な財源が確保しやすくなる点などを踏まえ、目標値を予算額、成果実績を執行額とする。	執行額	実績	百万円	16,862	130,083	24,828	-	-		
			目標値	百万円	16,862	130,083	50,148	-	-		
			達成度	%	100	100	50	-	-		

活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込
	基金設置都道府県数							
		活動実績	都道府県数	47	47	47	47	-
	当初見込み	都道府県数	47	47	47	47	-	
単位当たりコスト	算出根拠			単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込
	単位当たりコスト = X / Y ※単位未満四捨五入 X:「執行額(百万円単位)」 Y:「基金設置都道府県数」							
		単位当たりコスト	百万円	359	2,768	528	-	
	計算式	X / Y	16862/47	130083/47	24828/47	-		
平成28・29年度予算内訳(単位:百万円)	歳出予算目	28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由				
	-	-	-	-				
	計	0	0					
政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	利用者のニーズに対応した多様な保育サービスなどの子育て支援事業を提供し、子どもの健全な育ちを支援する社会を実現すること(VI-2)						
	施策	地域における子育て支援等施策の推進を図ること(VI-2-1)						
	測定指標	定量的指標	単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 -年度	目標年度 -年度
		-	実績値	-	-	-	-	-
			目標値	-	-	-	-	-
		定性的指標	目標	目標年度	施策の進捗状況(目標)			
	-	-	-	-				
				施策の進捗状況(実績)				
				-				
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係							
本交付金は、都道府県が基金を造成することにより、各自治体の多様な保育需要等に対応した子育て支援施策を提供しやすくすると共に、当該交付金を市町村が活用することによって「待機児童解消加速化プラン」に基づき実施する保育所の整備等の促進、保育所待機児童の解消が図られることを期待するものである。								
改革項目	分野:	-						
(第一階層) KPI	KPI (第一階層)	単位	計画開始時 -年度	27年度	28年度	中間目標 -年度	目標最終年度 -年度	
	-	成果実績	-	-	-	-	-	
		目標値	-	-	-	-	-	
		達成度	%	-	-	-	-	
(第二階層) KPI	KPI (第二階層)	単位	計画開始時 -年度	27年度	28年度	中間目標 -年度	目標最終年度 -年度	
	-	成果実績	-	-	-	-	-	
		目標値	-	-	-	-	-	
		達成度	%	-	-	-	-	
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係								
-								

事業所管部局による点検・改善			
	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	待機児童解消加速化プランの推進のため、保育の受け皿を整備するための事業であり、国民のニーズを反映している。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	待機児童解消加速化プランの数値目標の達成を目指し実施している事業を含むため、国が実施すべきであり、地方自治体、民間等に委ねることができない事業である。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	待機児童解消加速化プランの数値目標の達成を目指し実施している事業を含んでおり、優先度の高い事業となっている。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	-	
	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	-
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-	-
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	各都道府県の所要見込額に基づき交付しているため、妥当である。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	-
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	都道府県が基金を造成するための費用を交付している。
事業の有効性	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	○	当該経費については、待機児童解消加速化プランに基づく保育の受け皿を整備するためのものであり、平成29年度末までの市区町村の整備計画に基づき所要額を計上していることから、不用ではなく翌年度に繰越して整備を行うこととなるため、妥当である。
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	-	-
	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	毎年度、都道府県の申請に沿った基金の交付ができており、安定的な財源の確保という目標を達成できている。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	都道府県に基金を設置することにより、地域の実情に応じた施策を速やかに実施することが出来る。
関連事業	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	全都道府県が基金を設置し、事業を行っている。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	各都道府県に設置された基金は、各都道府県にて作成した事業実施計画に基づき執行されているため、十分活用されている。
	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	
	所管府省・部局名	事業番号	事業名
	-	-	-
	-	-	-
点検・改善結果	点検結果		平成20年度より47都道府県において基金が設置され、「待機児童解消加速化プラン」による保育所の整備等、認定こども園等の保育需要への対応、及び保育の質の向上のための研修などを実施するとともに、地域の子育て力をはぐむ取組等すべての子ども・家庭への支援、ひとり親家庭・社会的養護施設等への支援の拡充、児童虐待防止対策の強化、東日本大震災により被害を受けた地域における生活相談支援、配偶者間の不妊治療に要する費用の一部助成等により、子どもを安心して育てることが出来るような体制整備を行ってきた。
	改善の方向性		「一億総活躍社会の実現に向けて緊急に実施すべき対策」に伴い、「待機児童加速化プラン」の保育の受け皿拡大量を40万人から50万人に上積み、拡大したことを受け、平成27年度補正予算にて501億の上積みを行ったが、平成26年度の「骨太の方針」を踏まえ、今後基金を積み増しはせず、保育所等整備交付金、保育対策事業費補助金により事業を実施していく。また、積み増し分を合わせて、平成27年度末に基金に残額がある都道府県については、保育所等の整備に充当し、適切な執行に努めるように指導していく。
外部有識者の所見			
点検対象外			
行政事業レビュー推進チームの所見			
終了予定	事業は当初の予定通り、平成26年度をもって終了であること。なお、今後については基金の積み増しはせず、保育所等整備交付金や保育対策事業費補助金により事業を実施することとし、基金に残額がある都道府県については、適切な執行に努めるよう必要な指導を行うこと。		

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

予定通り終了

今後に関しては保育所等整備交付金や保育対策事業費補助金により事業を実施することとし、基金に残額がある都道府県については、適切な執行に努めるよう必要な指導を行っていくことに努める。

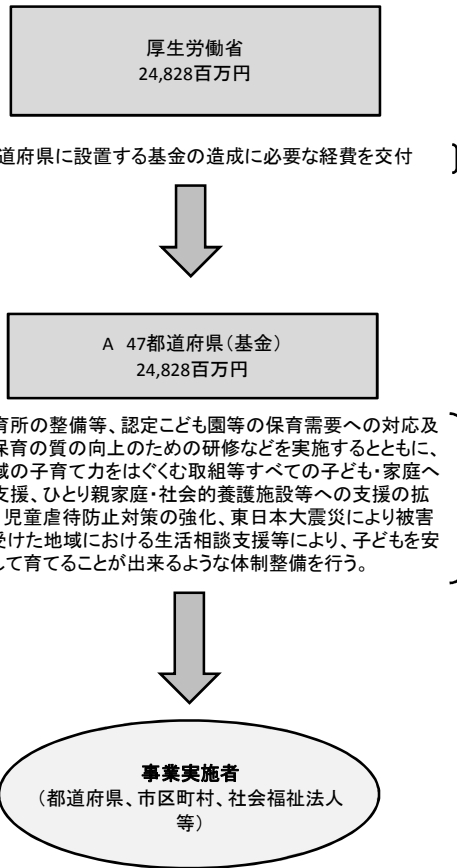
備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	412	平成23年度	371	平成24年度	319	/
平成25年度	632	平成26年度	636	平成27年度	648	

※平成27年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
(単位: 百万円)



費目・使途  
(「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

A.大阪府					
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
基金繰入金	基金造成に必要な経費	4,241			
計		4,241	計		0

